

# 新居浜市教委の育鵬社版採択の不可解さ

\*\*\* 不可解な採択委員会の答申と市教委の採択 \*\*\*

2015年8月13日 愛媛新聞

## 中学教科書

# 新居浜市育鵬社初採択

四国中央、新居浜、西条3市教育委員会は12日、2016年度から公立中学校で使用する教科書をそれぞれ採択した。新居浜の歴史は初めて「新しい歴史教科書をつくる会」の流れをくむ育鵬社版。四国中央は歴史、公民とも前回同様、育鵬社版とした。

## 新居浜市「採択委の結果を尊重」

新居浜市教委（三木由紀子委員長、5人）は定例会で市内全12中学校で使用する教科書を公開審議し、全会一致で歴史に育鵬社版を初めて採択した。

市民ら19人が傍聴。教育などを基に協議した。委員は学識経験者や小中学校校長、PTA代表ら計10人を1位としており、教育委員会は「反戦や平和の精神を採択委員会の総括や、市民生徒に教えやすい」「ややから寄せられた請願や意見視点が一方的な面もある」と話した。

が、人物の話題が豊富で興味深く読める」「命の大切さを学び、古里に自信を持つことができる」などと育鵬社版を評価し、挙手による多数決で決めた。公民は日本文教出版を選んだ。

三木教育委員長は「さまざまな意見が出された中で、総合的な判断をした採択委の結果を尊重した。教育委員としてもすべての教科書を十分比較検討し熟慮した」と話した。

市教委によると、市内12校の生徒数は3365人（5月1日現在）。

傍聴したえひめ教科書裁判を支える会の坂田進さん（59）は「事実を見極める子どもの目を曇らせる教科書が選ばれた。採択委が育鵬社版を推した経緯を調べたい」と憤った。

図書館での展示会で各校の教科書を開覧したという市内の60代の男性経営者は「育鵬社版は日本の歴史や伝統、文化を最も正しく表現していたので採択されてよかった」と話した。

（末光徹、相原清香）

## 学校現場の評価割れる

中学校の歴史教科書に初めて育鵬社版を採択した新居浜市教育委員会だが、学校現場から寄せられた二つの評価は割れた。

市教委によると、市教委が調査員として委嘱した、教科主任など教員6人による「調査員評価」（上位からA・Dの4段階）は、育鵬社版がA、東京書籍版がBだったのに対し、各中学校ごとに意見を取りまとめた「学校評価」では、12校中10校が1位を東京書籍版とし、育鵬社版を1位としたのは2校。2位とした学校は、東京書籍版1校、育鵬社版2校だった。

これら学校現場からの評価結果を踏まえた上で、採択委員会は育鵬社版を1位、東京書籍版を2位と総括し、市教委に提出した。今回市教委が採択した9教科15分野のうち「学校評価」と「調査員評価」の順位が異なったのは歴史、数学、家庭科の3分野。市教委関係者は「調査員は手元に教科書が配られ、じっくり読み比べることができるといった点で、育鵬社版が優れている。一方、他の教員は限られた時間の中、図書館に向いて開覧する。両者の判断にずれがあっても不思議ではない」としている。

（末光徹、相原清香）

市教委は、育鵬社版教科書（歴史）を採択。愛媛新聞は、左記記事のように「学校現場の評価割れる」なか、育鵬社版を採択したことを報道しています。

同採択には、下記㉠～㉥の不可解さがあります。

### 採択の不可解点

#### ① 調査員 育鵬社版を高く評価

育鵬社版:A(1位) 東京書籍版:B(2位)

育鵬社版の評価は全国的に低い  
調査員はその育鵬社版を高く評価 ←不可解

採択委員会が調査員を選

㉠調査員の恣意的な人選の疑い?

#### ② 「学校評価」東京書籍版を高く評価

各学校の意見の集計「学校評価」

東京書籍版:1位/10校(12校中)  
育鵬社版: 1位/2校

「学校評価」は、全教員が参加

恣意的な介入は困難

「調査員評価」より「学校評価」が公正公平性高い

多くの教員が育鵬社版より東京書籍版を評価

採択委員会は、調査員資料の評価を採用し  
育鵬社版を1位(A)に選定し、市教委に答申

㉡採択委が人選した調査員評価を採択委は優先

#### ③ 採択委員会会議録の不備

採択委の審議を経ての育鵬社を1位とする結果に至る委員らの発言内容が一切記載されていない

㉢公文書の記載義務違反

#### ④ 採択委員に事務局員3名

㉣戦前の反省にもとづく採択制度違反の人選